

歴代かわら版解説 1996年10月号

九月特別本集会報告

去る九月八日午後七時、昭島市公民館に於いて、平成七年度九月特別本集会が開催されました。本集会議題として、平成八年度理事長・承認の件、並びに各理事・監事承認の件が掲げられ採決の結果満場一致により無事承認されました。「次年度田宮理事長・来年一年頑張って下さい。」

本集会第二部においては、くじら祭報告として各部会・室会よりくじら祭内谷報告、また反省点報告等があつた後、くじら祭を担当された高瀬担当副理事長の総括挨拶で最後を締めくくりました。

本年度もあとわずかを残し、各部会・室会も追い込みをかけ、本特別本集会の承認により次年度体制での活動も本格的に始まります。各理事・また各会員の皆さん、体調には充分注意して平成七年度のA I J活動一〇〇%燃焼でカンパリましょう。尚、「〇〇%出席もお忘れなく。」

卒業にあたって

横手 秀敏

いよいよ、瓦版の紙面にてお別れのご挨拶をさせて頂く事が参りました。

想えば平成二年十一月秋季ミニーの会場で認証状をいただいて以来、今日までの五年間は「あ」と言う間でしたが「経験」という豪華な料理を噛み締めそと、感謝せません。

初めて配属された部会が清水輝さん部長の会員開発部会でした。入会したての緊張感と慣れないと、感謝せません。

二年目は、あの森高憲部長率いる情報研究部会でした。部員にも個性頗る方がいましたが、変でしたし、本会計も担当させられ忙しい一年でしたが、A I Jに対する考え方では大変勉強になりました。

ですが、この時の担当副理事

長は半年も休会しておきながら翌年とんでもない仕事(すばらしく)体験)振り分けたのです。

入会してわずか三年目の私に専務として言う大役を命じたのです。この無謀とも言える人選に驚き、困惑しているうちに池田さんは兄の許可を得てしましました。兄は弱みがあったのでしょうか。

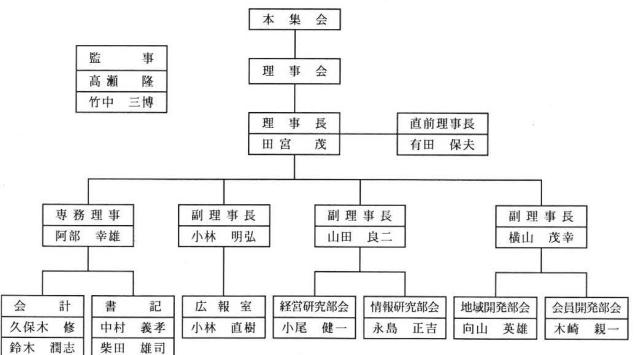
私も二人を相手に断わりきれず、お受けしてしまいました。それから的一年五ヶ月は、モー、タ、イ、ヘン。

冷静な会員からして見れば、波乱に富んだ一年でしようが、私は、本集会資料の作成・新規会員から卒業式、サラナラバーティーまで、生津忘れる事のない、すばらしい年でした。

四年目、金森部長の経営研究部会では一部員として春季セミナーにて刈羽原子力発電所・集計機を持ち込んでの「くじら祭」とアイデア豊かな部長のもと、楽しい一年でした。



平成8年度 昭島青年経営者クラブ組織表



- 2 -

かわら版解説「九月特別本集会報告」について

経営研究部会 副部長 安藤 千春

一九九六年の九月特別本集会の記事を読み、はじめ思ったのはその頃自分は何をしてたのかなど、ということです。今から二十五年前、まだ私は十四歳でした。

自分がまさかこのような若手経営者の会に入会してゐるなんて当時の自分では想像すらしていなかったでしょう。記事当時もですが、さらにもっと前から、すでに今のようなA I J活動をしている先輩方がいたかと思うと、歴史や重みを感じると共に今自分がこの会の一員でいられる事をあらためて光栄に感じます。

A I Jの歴史の中で今と昔の違い、変わらずに受け継がれるものなど自分なりに学び、理解していくことで自分自身の成長にも繋げる努力をしていくこうと思います。先輩方がしていた効率化を意識しながら、多くの意見を取り入れる懐の深さを大切することを、今後の活動目標にできたらと思います。

かわら版解説「卒業にあたって」について

広報室 編集長 服部 尋

『卒業にあたって』をご寄稿された横手先輩の記事を拝見し、まず最初に思ったことが『平成二年十一月認証』ということでした。

実は、今年のかわら版の年間テーマである『過去かわら版』の題目とする記事を選んでいるのは編集長である私であり、選定はそれなりに昔のものを選んでいます。それでも、『平成』というフレーズが出てくるということに驚きました。まずは平成という時代の長さ。そしてA I Jの歴史の長さです。A I Jが活動を続けてきた中で、様々な事柄が発生し、数々のドラマがあつたのだろうと推察しています。

今回紹介させていただきました横手先輩のご卒業の記事も、当然その中の一つであり、ご本人はもちろん、A I Jという組織にとってもかけがえのない事柄なのだと思います。そして、その活動の一部を広報室編集長として活動できたことを感謝する次第です。



- 6 -

